村のうごき

四月六日　駐在員会議
八日　選挙管理委員会
一一日　高校入学式
一五日　選挙管理委員会
一六日　村議会
一九日　農業委員会
二〇日　選挙管理委員会
二四日　村内校長会
二六日　婦人学級（猿橋）
牛乳処理所入札
二七日　婦人学級川舟

広報さわうち

発行所
岩手県和賀郡沢内村役場
電話猿橋局1番
発行人……石川　包
編集人……太田　祖電
印刷所……平﨑印刷所
毎月1回30日付発行

村長に深沢晟雄氏　無競争当選

村選管では、石川現村長が五月九日をもって任期満了となるので去る二十一日「村長選挙を四月二十八日執行」する旨の告示を行った。然し届出の締切期日である二十四日に至るも、立候補者は前助役の深沢晟雄一人であったので投票は行わないこととなり、同二十八日午前十時より役場において選挙会を開催、深沢氏の当選を確認即日当選証書が附与された。従って深沢晟雄氏が沢内村の第十八代村長として、五月十日正式に就任今後四年間の村政を見ることとなった。

深沢晟雄新村長の略歴——一関中、二高、東北帝大法文学部卒、その後中国の上海銀行を振り出しに台湾総督府、満拓公社満東辺道開発会社等に勤務、ついで北支山東鉱業の炭鉱長　終戦後帰国して佐世保船舶の次長、日東開発、其の他の会社重役を歴任、二十九年より帰村して、沢内村教育長、助役を経て今日に至った。

乳牛二五頭導入

このたび有畜農家創設維持法により乳牛二五頭が新たに導入され総頭数一四〇頭になった。又前に導入した乳牛はその搾乳量日産一石以上になり牛乳処理所の建設決定と相まって、沢内酪農もいよいよ軌道にのってきている。

新駐在員きまる

村では本年度の部落駐在員を、次の人々にお願いすることになった。

大野　泉川　礼治
新町　加藤　豊保
前郷　佐々木　長市郎
太田　新田　三次郎
鍵飯　刈田　棋当
西猿橋　田中　正平
東猿橋　桧山　松三
川舟　石井　二三
若畑　石川　慶蔵
貝沢　田中　勝男

さあ、これからは忙しいぞ！早くも苗代作りに懸命だ。けれども水はまだつめたい。
（4月28日太田にて）

次期村長はこう考える

【当選が確定された深沢晟雄氏を二十八日訪問いろ〳〵御抱負を伺って参りました。文責T】

○御当選おめでとうございました
×いやあ、おかげさまで。無競争とは夢にも思っておりまんでしたが——いざこういうことになってみると益々責任の重大さを感じております。
○これからの新村政をお伺いいたしたいと存じますが
×とりたてゝ申上げることはありませんよ、先輩各位の示してくれた方向をやっぱり歩いていくだけですね。大体地方自治のやり方に、まあ本村の場合などでも石川村政とか照井村政とか、個人の名前を冠していわなければならんという内容はないのが本質だと思うんだ、仕事はみんな継続的な仕事なんですからね
○でも施政の上になにか重点があってもいゝと思いますが
×まあ、おいおい勉強して、これが私の方針、というものも、おのずから出て来ると思うけど、まあ　しいていえば、村政の上に政策の是々非々は大いに論じてもらいたいんだが、人間的関係の感情的対立、もしあるとすればですよ、有害だと思うんで和をもって尊しとする、これを第一に考えたいね、二番目は村の各機関の協調だな、農協、病院、教委等々、農協はなんといっても村民の経済の面の元締めだし、これと一体的に村政を進めたい、てんでんばらばらなあり方をすっきりしたものにもっていきたいということ、それから第三に、政治の倫理性ということ、まあ当局も議会も村民の信頼をうけるような、つねに自己批判を加えてゆくということ村民のためのという公僕精神、まあ倫理性を強調すること、それに対外的に信用を得てゆくやり方を、まあ第四にあげるか、村の外交というかそうした面の信用を回復していかねばならんと思いますね、営林署関係、土木関係、県の関係、病院のことについては大学との関係等々村の折衝面あらゆる方面に沢内の信用をあげてゆかねばならんと思っておりますね。これらを私は一口に信頼の政治、信頼の外交という風なスローガンで呼んでおるが
○具体的な目標はどういうことになりますか
×懸案事項の解決、いろいろ現在やっていることの早急な解決、新しくは国有林の解放を是非うけたいとか。交通、通信機関の整備とか、貯蓄の奨励とか数えきれないほどある。まあ急がすみんなの意見を聞いてやる積りだ。
○どうもありがとうございました

納税のお知らせ

五月には次の村税の納期です。
一、自転車荷車税　全期
一、犬　　税　全期
自転車荷車及び犬税は四月一日現在において賦課する村税であり両税ともその所有者に対し課される税です。
自転車荷車を新しく取得された人及び旧所有者の人で未だ鑑札の交付を受けておらない人は必らず鑑札の交付を受けて下さい。
なおこの税の賦課についてまちがい（又はあやまち）等があると認める場合においては徴税令書を受取った日から三十日以内に異議の申立をすることが出来ますから、誤賦課と認められる方はその期間内に異議の申立をされると共に納期限内に完納されるようお願い致します。

佐々木先生来る　新任副院長

こんど新しいお医者さんが赴任いたしました。青森県から来られたものですその略歴は次のとおりです。
佐々木正明、昭和二年生れ
昭和二七年岩手医専門部卒同二九年八月まで同校のレントゲン教室に居り、三一年三月まで青森県の六戸病院に勤務されていたもの。

共済事業振う

六百万農家のたすけ合い制度として発足した。農協の共済事業は全国的にその進展めざましく沢内村でも三十一年度目標額を二千六百万円として運動して来たが、年度末総計二千六百一五万円となり目標を完遂した。

テープコーダ購入に　温いPTAの協力

先月号でお知らせしたが、こんど長瀬野小に、六五、〇〇〇円の高級テープコーダーが入った。
これは三十一年度の教材費一八、〇〇〇円と、PTAよりの寄附金によるもので、次代を荷負う子供たちの教育のために、進んで協力を申出る学区民に、学校側はもちろん、村当局も深く感謝している。
なお沢内一中でも購入したが、言語教育、歌唱指導、子供会の活動、講演会、座談会の記録、無形文化財の保存育成等その利用価値は大なるものがあり、また社会教育の面や学校と地域の結びつき等々に重要な役目をはたしている。早速子供たちや古老の声、歌等を録音し、生れて始めて聞く自分の声に喜んだり、がっかりしたりして仲々好評でもあり、かつ広く利用されている。
現在これを備え付けているのは
▼沢内村教育委員会　▼長瀬野小
▼沢内一中　▼沢内二中
▼太田小
▼貝沢小中
の六台である。

村の伝説（17）　八兵工の魂

文　高橋　善二
え　久保　俊郎

その年もお盆が過ぎると急に晩秋のような寒さがやって来て、この年も不作らしく農家をがっかりさせていた。

七月の末の寒い晩のことでした和尚さんは、いん宅に檀徒を集めて八兵工穴にいったときの事を話し合いました。そして居ならぶ人達に向って言葉を改めて言うには「おのおのの方々、今年も稲作はよくないようなので、こんな年にどうかと思うが、つくづく思うに八兵工の魂をなぐさめるには、砥管山の八兵工穴のほとりにお堂を建てて祀る事より外にないと思うがどうだろうなー」と相談におよびました。この時一人の老人が「それもえがべが、あの山さ、なじょな事して材木をはこぶべな」と、いいました。和尚さんは「なァに材木なら、あの山の近くで取ることにするべ。なんぼでもないんだから。」と、いったのでこれについては外に誰一人意見をのべるものもなく、そのまままとまりお堂の大きさや材料などのこともすぐさま相談がまとまりました。

この事が部落の人達に知れると心ある善男善女は、仏のためにと大工のさしずで砥管山まで材料運びに奉仕したので半月もたたない中に、一宇の堂が建てられ和尚さんによって八龍権現と命名（めいめい）されました。定めし地下に眠る八兵工青年の魂も百余年たってから始めて成仏（じょうぶつ）したことでしょう。

文化年間は不作が続きました。記録によると、その最もひどかったのは文化十年で南部領内全域にわたっての大ききんとなり、いわゆる文化の大ききんといわれました。天さいや、地変が続くと神や仏にすがるのは人間の弱さです。こうした世相を背景にして、又もや八兵工穴について大さわぎが起った。

「砥管山の八兵工穴に地ごく穴が出来て水がさかさに流れている。」と、いう噂が立ち部落の人々は恐ろしいながらも二、三人と連れ立って物見に出かけるのでした。

この事を聞いた和尚さんは、人々のさわぐのは、何んのことやら一向わからないので、自ら出かけてたしかめようと前の年行った人達を誘いました。

雪の消え去って間もない砥管山は、若葉のうす緑をおびたのみで道はじめじめしただら〳〵坂でした。林の中にはいっても遠くまで見えて、去年の夏来た時よりは明るい気分がしました。

程なく八龍権現も見えた。八兵工穴に近づくと背すじを流れていた汗が急に冷汗にかわりました。

驚以上の出来事に

穴のほとりに、さしわたし一丈余りの大きな穴が出来て、その底ははかり知れず岩どけの沢水が逆流してその穴にどんどんと流れこんでいました。一同は思わず「まんち、たまげだなー」と、いうのみでした。和尚さんは、「これこそ、八兵工の魂が、まさにその命を現わしたものであろう南無阿弥陀仏々々々々。」

人々は、ただ不思議（ふしぎ）の眼を見はっているのみでした。

八龍権現は、後に八龍神社とあらためられてながく後の世まで伝わりました。

（おわり）

婦人学級だより

教育委員会ではこのほど猿橋と川舟の二ケ所に婦人学級を開設した。四月二六日午後一時より猿橋小学校で婦人たち約五十名が集り太田祖電氏の「嫁と姑について」の話があり、ついで田中保健婦、千葉生活改良普及員から「育児」と「食生活に」ついてそれぞれ興味ある話やら相談が行われ、談笑のうちにも熱心に耳を傾けていた終ってからは講堂で手拍子そろえて花笠音頭などを踊って意味ある一日を終えた。二十七日は川舟で催ちれ、約三五名の生徒？がこれ又熱心に勉強していたがいろ〳〵な質問の続出に講師たちの方が圧倒され、婦人学級の勉強の意欲にびっくりしていた。

青年学級だより

第二青年学級では去る四月二十六日、沢内二中に於て昭和三十二年度の開講式が行われ、学級生九七名で本年度のスタートを切った。
この日夜七時半より八時まで、「歌ごえ」「スクエアーダンス」に始まり、八時より太田教育長の「欧米を歩いて感じた月本人の長所、短所」の講演を聞き、ついで昨年度の反省を行った。特に一貫した研究テーマを持ち得なかった事と、全体学習と分室学習の持ち方、学習日時の問題から、家の人との理解と協力なくしては、青年学級は育たない点が強く反省された。なお各学級でも開講のはこびになてっいる。

婦人會の役員改選

太田婦人会ではこのほど総会を開き任期満了にともなう役員を改選の結果深沢三紀子氏が会長に、副会長には小田島富美子、米沢とし子の両氏に決定した。
なお川舟婦人会でも総会を開き同じく役員を改選の結果会長に佐々木幸子氏を決定した。

ことし入學した子供たち

この四月一日各小学校に入学した児童は合計一八六名です、体の具合が悪くて就学猶予した人は三名ありました。学校別は次の通り

新町小　六七　猿橋小　三一
太田小　一八　長瀬野小　一六
川舟小　二八　若畑小　一三
貝沢小　一三　合計　一八六名

なお各学校の在籍数は
新町小　三八六　太田小　九四
猿橋小　一八三　長瀬野小　八二
川舟小　一五八　若畑小　七三
貝沢小　二四九　合計　一、〇二五
一中　二二六　二中　一〇二
三中　一〇六　貝中　四〇
合計　四九四名

したがって沢内村には小中合せて一五一九名の生徒がいるわけです

新町小にピアノ

うた声も明るく

ピカ〳〵光るピアノです。待ちに待ったピアノです。ポンポコピアノがひびきます。
明るい春日をあびながら、ポンポコピアノがおどります泥っこをうらにくっつけて、ピアノに合わせてうたいます。
おれらのうたをのせながら、ポンポコピアノが流れます。きれいな音を流します。
おれらの学校明るいな、ピアノがきれいにすわってます。
お家のみなさんありがとう。
村のみなさんありがとう。
きょうもピアノは鳴ってます。
ポンポコ鳴ってます。

圖書の利用について

教育委員会に備えつけてある図書を利用されている皆さんにお願いします。それは貸出し期間が過ぎても返却してくれない人が多いからです。少くとも一ケ月以上も借りっぱなしにしている人は大至急返却して下さい。みんなの図書ですみんなに読んでもらいましょう

戸口だより

三月一日〜三一日

▽出生
泉沢　田中　恭子　正男二女
向太田　竹沢　巳子　勝雄長女
高下　佐々木栄一　昌一長男
猿橋　猿橋　信弘　昭一郎二男
両沢　新田　春夫　孫作三男
貝沢　大堀美喜子　勇長女
猿橋　藤田　孝子　敏夫長女
合戦場　大沢　恵彦　司郎長男
猿橋　近藤　きえ　喜一郎二女
新町上　高橋　建　礎長男
猿橋　近藤　孝昭　昭一長男
向太田　刈田　光雄　耕進二男
長瀬野　藤原　実　竹雄三男
東大野　高橋　教子　信男長女

▽婚姻
猿橋　猿橋　勘
湯田村　高橋　ヨシ
若畑　児玉　繁蔵
猿橋　高橋　友子
猿橋　近藤サダ子愛知県へ

▼死亡
太田南　近藤　吹子　二ケ月
新町下　刈田　倉治　七十八才
猿橋　佐々木良一　四十才
下ノ沢　佐々木栄治　一才
新町上　大石　鉄弥　五五才
太田北　深沢　育子　一ケ月
向太田　刈田　薫　五才